



2 市内全域の指定避難場所などで避難所設置運営訓練を実施（写真左から大平公民館、ホワイトキューブでの訓練の様子）。



3 大鷹沢地区では、各自主防災会が避難場所として決めている集会所に一時避難する訓練などを実施。各自主防災会の防災委員が公民館に集まって、それぞれの訓練の状況や振り返りなどを行った。



4 南町自治会自主防災部では、避難訓練や被害状況報告訓練、防火訓練、炊き出し訓練などを実施し、約60人が参加。毎年、総合防災訓練の日に合わせて自治会独自で訓練を行い、今年で6回目。日下徳衛会長は、「訓練を続けることが防災につながる。続けることで顔見知りになって、風通しが良くなり、親しくなれば声を掛け合える。世代を超えて集まれる場をこれからも作っていきたい」と話した。



1 メーン会場の福岡中学校では避難者の誘導、避難者名簿の作成、被害状況の把握、要援護者の安否確認、要援護者の移送、臨時救護所の設置、緊急物資の輸送、給水、炊き出し、煙中通過体験、倒壊した家屋からの救出・搬送法、応急担架の作成方法などの訓練を実施。

東日本大震災の教訓を生かす

市内全域で避難所設置運営訓練を実施

平時の「備え」、避難時における住民同士の声掛けや避難所への誘導
繰り返しの訓練が、接する機会を生み「人」をつなげる

6月10日、「白石市総合防災訓練」がメーン会場である福岡中学校などで行われた。「午前7時25分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0と推定される地震が発生。最大震度6以上の揺れが宮城県を襲う。本市の一部では震度6弱を観測」。ここまでが、市が用意した訓練の想定である。この想定をもとに、各自主防災組織や各自治会が独自にシナリオを作成。安否確認や避難訓練などを実施した。

市では、本年4月に導入した防災メールで直ちに市職員を非常招集し、午前7時52分、災害対策本部を設置した。MCA無線で消防署や各地区公民館などに安否確認などを要請。各自治会では、民生委員・児童委員が要援護者の安否確認をするともに、各消防団や各自主防災組織などが、被害状況の調査や避難誘導を開始した。市職員は、情報収集や伝達、避難路確保から始まるさまざまな初動対策を自ら考えて行動。各指定避難場所では、事前に割り当てられている避難所開設担当職員が、直ちに各自治会や各自主防災組織とともに、避難者名簿の作成や被害状況の把握をするなど、避難所の設置運営を行った。

本市では、毎年6月にメーンとなる地区を定め、シナリオ通

りの訓練を実施してきたが、東日本大震災で浮き彫りになった課題を教訓に、市や消防団、各自主防災組織、各自治会などとの連携による初動体制の強化を目指し、本年から地震の発生想定のみでシナリオを示さない訓練を実施。重点地区以外のすべての地区の指定避難場所においても「避難所設置運営訓練」を実施することにした。

訓練を担当した市生活環境課の熊谷弘一課長補佐は、「震災の教訓を生かし、いざという時に市職員が指示なしで素早く初動に入れるよう各自の役割を決めた。シナリオを示さない訓練は、集まった人たちが話し合いどんな状況でも対応できるようにするため。訓練を検証し、地域の特性に応じた対策やそれぞれの行動に生かしたい」と話す。

訓練に参加した山根自治会長の高橋昌明さんは、「いざという時は、行政や消防などの力だけでは限界がある。地域にはいろいろな分野の知識がある方がいるので、独自の訓練を実施するなど、知識や技術を身に付け方が一に備えたい」と話した。

訓練には、メーン会場の福岡中学校や各指定避難場所などに2,300人を超える市民の皆さんなどが参加。真剣な表情で訓練を行った。

そこに暮らす家族や仲間が小さなコミュニティを形成

～互いに助け合いながら 自分たちにできることをする～

訓練に参加した自主防災会兼自治会の会長を務める二人に、訓練に参加した感想やこれからの抱負を聞いた。

いざという時に備えて 体が自然に動くように 訓練を繰り返す



山ノ下自主防災会
やまき きゅうえつ
会長 八巻 久悦 さん

一時避難場所への避難誘導や情報収集、伝達訓練などを実施するとともに、一時避難場所から避難者を指定避難場所である福岡中学校へ誘導する訓練などを実施した。

体が自然に動くようになるためには、繰り返しの訓練が必要。地域とともに生きる家族や仲間が支え合っているように、地域のコミュニティ活動と組み合わせ、これからも取り組んでいきたいと思う。

いざという時に 互いに助け合って 初動に対応できる組織を目指す



長袋自主防災会
たかの つぎお
会長 高野 次雄 さん

災害時の防災活動を効果的に実施するには、普段からの組織体制の整備や防災訓練などが必要である。

シナリオを示さない訓練は、できること、できないことを話し合えるきっかけになって、有意義な研修となった。

いざという時は、日ごろの隣近所同士の付き合い、人と人のつながりが力を発揮する。訓練で経験したことや学んだことを持ち帰って、今後を生かしていきたいと思う。